

全道大会の話

高体連が中心になって開催する全道規模のテニス大会は年に2回あります。1回目は5月の支部大会を勝ち抜いた学校・選手が集まる6月の全道大会。正式には「北海道高等学校テニス選手権大会」と言います。去年は帯広で第47回大会が開催されました。この大会は8月の高校総体（全国高等学校総合体育大会・インターハイ）の予選でもあります。もう1回は8～9月の秋季支部大会を勝ち抜いた学校・選手が集まる10月の秋季全道大会。去年は旭川で第29回大会が開かれました。正式には「北海道高等学校秋季テニス大会」。3月末に行われる全国選抜高校テニス大会の予選を兼ねています。

今回は6月の全道大会「北海道高等学校テニス選手権大会」のことを大雑把^{おおざっぱ}にお話しします。今年は札幌。会場は、野幌総合運動公園のオムニコートです。

試合の前日は大会会場で公式練習が行われます。何時から何時までどこの高校が何番コートで練習しているのかを示した表が事前に発表され、強豪校の練習風景を見ることが出来ます。また、多くのチームが集まる場を利用して、支部を越えた練習試合があちこちで行われ、緊張感の中にもリラックスした雰囲気^{おおも}の交流の場となっています。

大会初日は開会式に続いて団体戦。前号に書いたように、空知支部からは男女各1校ですが、支部大会の団体戦参加校が8校以上になれば2校出場することができます。道内の各支部から概ね^{おおも}2校ずつ、ただし男女各50校を数える札幌支部からは5～6校が出場し、全体で20数チームが出場するトーナメントになります。対戦が上位に進むにつれ、応援合戦もヒートアップしてきます。団体戦が進み、試合と敗者審判が終わったチームが出てくる昼前頃には個人戦ダブルスも始まり、団体戦と平行して試合が進みます。この日は団体戦の準決勝や決勝を残して日程を終え、2日目は朝イチからインターハイ出場に関わる大熱戦が繰り広げられるのです。長い歴史の中では、昭和40年代までに小樽や旭川の学校が団体優勝した記録が残っていますが、それ以降は男女とも札幌勢が優勝旗を独占しています。この日は個人戦ダブルスの残り試合が中心。決勝戦までが行われます。ダブルスが終わった選手からシングルの試合も始められ、だいたいベスト16とか、ベスト8を残したところでこの日の日程は終了。最終日にシングルス上位の選手の試合が残されます。個人戦の優勝者の記録を見ると、ぼつりぼつりと小樽・旭川・函館の選手が食い込んでいますが、やはり札幌勢の独壇場と言えます。

インターハイに出場する一握りの選手を除いて、3年生はこの大会を最後に高体連のコートを後にします。2日目の夕方頃から、会場の一隅で部員全員が大きな輪を作って並び、神妙な面持ち^{おもも}で3年生引退のセレモニーをする学校も目にします。仲良くなった他校の生徒との別れは、ちょっぴり寂しいです。